

かむなきへのまそをとめ
巫部麻蘇娘子の雁がねの歌一首

一五六二番

誰聞きつ たれき こゆ鳴き渡る なわた 雁がねの かり 妻呼ぶ声の つまよこへ
ともしくもあるを

おほとものやかもち
大伴家持の和ふる歌一首

一五六三番

聞きつやと き 妹が問はせる いもと 雁がねは かり まことも
遠く とほ 雲隠るなり くもがく

へきのながえをとめ
日置長枝娘子の歌一首

一五六四番

秋付けば あきつ 尾花が上に おほな 置く露の うへ 消ぬべくも我 お
は おも 思ほゆるかも

おほとものやかもち
大伴家持の和ふる歌一首

一五六五番

我がやどの わ 一群萩を ひとむらはぎ 思ふ見 おも に こ 見せずほとほ
と ち 散らしつるかも